ホテルで火事だ！

その時あなたは“責任者”

パソコンで「消火訓練」

消防庁 ゲームソフト販売へ

「火事だ。どうしよう」―。消防庁が開発し、全国の消防本部に訓練用として配ったパソコンソフト「ホテル火災シミュレーションゲーム」が好評で、防災の日（九月一日）を機会に、八月末から一巻八千円で一般にも販売する。現在、続編の「病院火災」ソフトも開発中で、来春にはお目見えする予定だ。

旅館やホテルの火災件数は最近、大幅に減ってきたが、依然として大惨事が後を絶たない。このため消防庁は、その原因の一つになっている省力化に伴う夜間防火管理体制の弱体化を補うため、パソコンによる火災シミュレーション訓練を思いつき、昨年春からホテル関係者や防災コンサルタントらの協力を得て、ゲームを作った。

ゲームは七階建てのリゾートホテルが舞台。プレーヤーがホテルの夜間当直者になり、火災報知機が鳴ってゲームは始まる。宿泊客は約二百人、火災は二―七階のどこかで発生し、炎と煙は刻々と館内に広がっていく。

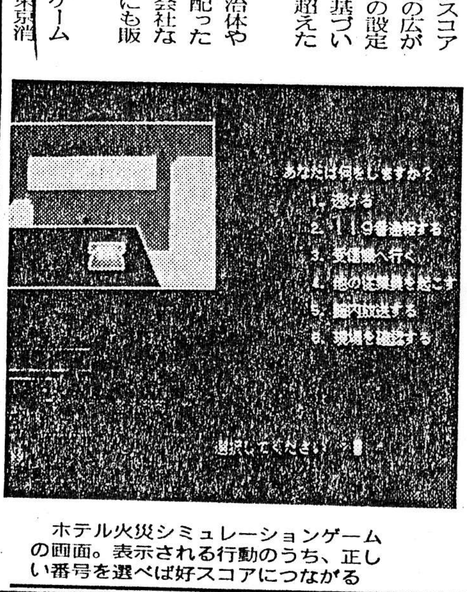
プレーヤーは限られた時間内で次々と行動を選び、ホテルの中を移動しながら、出火場所の確認、一一九番通報、初期消火、宿泊客の避難誘導をする。

一一九番通報して約五分後に消防車が到着すると、ゲームは終了し、死傷者数と焼失面積がスコアとして表示される。炎や煙の広がり状況、死傷者などゲームの設定は、実際の火災のデータに基づいて作られており、ゲームを超えた迫力がある。

今春、手始めに全国の自治体や約千の消防本部に二巻ずつ配ったところ、防災関係者や保険会社などからの要望も多く、一般にも販売することになった。

消防庁の課長補佐時代にゲームの開発に当たった小林恭一東京消防庁指導課長は「もともとホテル関係者の火災訓練、教育に役立てる目的で作った。単なるゲームだが、火災発生時の対応の難しさを分かってもらえれば、日ごろからどんな準備が必要か痛感するだろう。病院の次は、老人ホームなど福祉施設にしたい」と話している。

ゲームソフトの問い合わせ先は東京都港区虎ノ門二ノ九ノ一六、日本消防設備安全センター。電話03（501）7911。



ホテル火災シミュレーションゲームの画面。表示される行動のうち、正しい番号を選べば好スコアにつながる

8/24 サンケイ 夕刊